

# 令和7年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

| 学年<br>実施月日 |     | 生徒数<br>(人) | 平均正答率(%) |      | 平均無解答率(%) |      |     | 平均IRTスコア |
|------------|-----|------------|----------|------|-----------|------|-----|----------|
|            |     |            | 国語       | 数学   | 国語        | 数学   |     | 理科       |
| 3 年        | 学校  | 60         | 49       | 39   | 7.1       | 14.3 | 学校  | 488      |
|            | 大阪市 | —          | 52       | 46   | 6.8       | 11.2 | 大阪市 | 489      |
|            | 全国  | —          | 54.3     | 48.3 | 6.7       | 10.6 | 全国  | 503      |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

| 学年<br>実施月日 |     | 生徒数<br>(人) | 平均点(点) |      |      |      |      | 平均無解答率(%) |     |      |      |     |
|------------|-----|------------|--------|------|------|------|------|-----------|-----|------|------|-----|
|            |     |            | 国語     | 社会   | 数学   | 理科※  | 英語   | 国語        | 社会  | 数学   | 理科※  | 英語  |
| 3 年        | 学校  | 53         | 66.3   | 45.4 | 54.3 | 48.9 | 50.8 | 5.8       | 7.6 | 10.8 | 8.6  | 7.3 |
|            | 大阪市 | —          | 64.8   | 51.5 | 54.3 | 48.2 | 54.4 | 6.1       | 5.8 | 11.2 | 8.6  | 6.5 |
|            | 大阪府 | —          | 64.2   | 51.2 | 53.9 | 48.1 | 53.2 | 6.8       | 6.5 | 12.1 | 10.0 | 7.4 |

※ 3年生の理科はA問題を選択

令和7年度 大正中央中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

- ・国語、数学、理科の3教科で、大阪市平均、大阪府平均より上回っている。
  - ・また、下回っている社会、英語についても、昨年度よりは大阪市、大阪府平均に近づいている。
- 教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)
- |                     |                    |        |                     |
|---------------------|--------------------|--------|---------------------|
| 国語(66. 3/1.02/1.03) | 社会(45. 4/0.88/0.89 | ※昨年度 ) | 数学(54. 3/1.00/1.01) |
| 理科(48. 9/1.01/1.02) | 英語(50. 8/0.93/0.95 | ※昨年度   | 46. 9/0.86/0.87)    |

<国語>

- ・大阪府と比較して、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」の領域では平均点が下回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」の領域では上回っている。

<社会>

- ・大阪府と比較して、全領域で平均点が下回っている。しかし、記述式の問題については、すべての問題で上回っている。

<数学>

- ・大阪府と比較して、「関数」「データの活用」の領域では平均点が下回っているが、「数と式」「図形」の領域は上回っている。

<理科>

- ・大阪府と比較して、「エネルギー」の領域では平均点が下回っているが、「粒子」「生命」「地球」の領域では上回っている。

<英語>

- ・大阪府と比較して、「聞くこと」「書くこと」の領域では平均点が下回っているが、「読むこと」の領域では上回っている。

<アンケート>

- ・文章や資料などを読むときに、どこが大事なところか考えながら読んでいる生徒の割合は、大阪府を上回っている。(本校 94.6%／府 90.3%)
- ・授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面が週1回以上ある割合は、大阪府を上回っている。(本校 72.7%／府 65.7%)
- ・自分の学級は違った考えや意見を受け入れる雰囲気があると考えている生徒の割合は、大阪府を上回っている。(本校 89.1／府 86.2%)
- ・難しいことがあってもあきらめないと答えた生徒の割合は、大阪府を上回っている。(本校 83.7%／府 77.7%)
- ・家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している生徒の割合は、大阪府を下回っている。(本校 69.1%／府 72.0%)
- ・テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている割合は、大阪府よりかなり下回っている。(本校 58.1%／府 68.2% 77.7%)
- ・普段、まったく本を読まない生徒の割合は、大阪府よりかなり上回っている。(本校 52.7%／府 33.2%)

【今後に向けて】

- ・生徒のもつ「困難でもあきらめない」気持ちをいかして、粘り強く学習に取り組ませる。
- ・校内での放課後学習の環境は整っているが、さらに家庭での学習習慣の定着をめざし、個に応じた家庭学習ができるよう支援する。
- ・学級では多様な考えを受け入れる雰囲気づくりができています。今後もICT機器を活用した主体的・対話的な場面を多く取り入れるとともに、学習したことをもとに社会的な出来事への関心を高めるなど、さらに深い学びにつなげる授業を工夫する。
- ・校内では図書館の開館時間を増やすなど、読書環境を整備しているが、さらに読書活動の推進に向けて取り組む。